

## e-アジア国際シンポジウム 2012 (The e-ASIA International Symposium 2012)

実施機関：一般財団法人 武田計測先端知財団（総括責任者：唐津 修）

実施期間：平成 24 年度

## プロジェクトの概要

本事業は、東アジア各国の科学技術コミュニティ、民間営利・非営利部門、政府関係機関の代表者が、e-アジア国際シンポ 2011 で課題となった域内共同人材育成や共同研究について多面的な視点から議論を行うことにより、域内連携について理解を深めることを目的とする。前回より規模を拡大(参加国 7 か国→10 カ国以上、海外からの参加者 10 名→15 名以上)し、継続的な議論を行いアジア諸国への科学技術連携についての具体的な政策提言に繋げる。また、若手関係者を招へいして、域内連携に対するモメンタムを拡大する。幅広い一般聴衆の域内連携に対する理解を深め、域内連携への合意形成につなげる。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

前年のシンポジウムにおいて示された、科学技術共同研究の各国共同支援や研究者の域内移動推進、そして域内人材育成などの提案実現に向けて、キーパーソンを含む東アジア諸国からの参加者を強化してシンポジウムを開催し、多面的な議論を行って、信頼関係を醸成しつつ域内連携についての理解を深めた点で評価できる。これらの目標の具体化に向けて、キーパーソンの連携を推進し、各国の代表からなる国際政策対話連絡協議会の設立に結びついた点も評価される。信頼醸成に有効であるとともに、外国人参加者が多様であったことに代表されるごとく各国のキーパーソンの連携を促進し、議論が深まったことは評価できる。

一方、国際オープンイノベーション・リサーチセンター設立の具体化に向けて、ワーキンググループを設置し、設置先として考えられているタイと我が国の関係者間の意識醸成等が図られつつあるが、他の周辺諸国の協力喚起などに向けた意識醸成やアジアのセンターとしての仕組み作りの改善を期待する。

- ・**目標達成度**：計画に沿って会議やシンポジウムが開催され、各国のキーパーソンを強化した参加メンバーにて、昨年度の討議をもとに、焦点もより絞られて議論が深められ、具体的な政策提言に達している。次なる展開準備が整えられつつある点も評価できる。

- ・**成果**：本シンポジウムにて提案された課題の実現に向けて、各国の代表者から成る国際政策対話連絡協議会が設立される等、本活動を継続的に展開していく基盤が構築されて、域内連携推進に向けた我が国のプレゼンス向上にもつながっている。加えて、国際オープンイノベーション・リサーチセンター設立に向けてワーキンググループの設置と具体化討議が進みつつあり、

タイからも積極的なアプローチがあって、早期具体化に期待する。

・**計画・手法の妥当性**：科学技術推進に向けた域内連携確立に向けて、信頼醸成から政策提言・そして連絡協議へと進めようとする計画は明確かつ妥当である。なお、アジア各国はその発展段階やニーズにおいて国別に多様化しており、本取組で得られた政策提言をアクションプランとして具体化するステージでは、その調整と推進に向けて、各国から参画する政府関係者の強化と民間企業からの参画度の向上を期待する。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：国際オープン・イノベーション・リサーチ・センター具体化に向けたワーキンググループ設置、国際政策対話連絡協議会賛同者の集約等、次なる展開に向けた準備が整ったことは評価できる。今後、計画されるタイにおけるリサーチ・センターの早期実現を図るとともに、国際政策対話連絡協議会の仕組みにおいて、各国間ネットワークの強化と活性化が期待される。大きく重要な政策提言を実現するには運営体制の強化が必要であり、リサーチ・センター設立を端緒にさらなる展開を期待する。